

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 6 月 24 日現在

機関番号：24102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K04142

研究課題名(和文) 当事者・家族・支援者・研究者関係の変容：精神障害をめぐる社会関係の概念分析

研究課題名(英文) The transformation of the relationship between patients, family members, practitioners and researchers: An conceptual analysis of the social relations concerning mental disability

研究代表者

浦野 茂 (Urano, Shigeru)

三重県立看護大学・看護学部・教授

研究者番号：80347830

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、精神障害者に対する支援実践における知識の社会的組織化をめぐる問題とそれに対応するための技法を明らかにすることである。本研究の成果は次の通りである。第一に、精神保健医療領域における障害当事者の知識をめぐる課題を、病識欠如の概念を中心として整理した。第二に、実際の支援場面の分析を通じ、障害当事者の知識をめぐる課題に対して支援者たちの採用している支援技法を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、精神障害者に対して行われている支援実践を知識の社会的組織化という観点からの解明を試みた。とりわけ障害当事者のもつ知識をめぐる倫理的課題を取りあげ、第一に、この課題が実際の支援の現場においてどのような仕方で現れているのかを具体的に明らかにした。第二に、実際の支援実践の収録データの分析に基づき、この課題に対応するための技法にはどのようなものがあるのかを明らかにした。本研究の学術的意義および社会的意義は以上の二点である。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to clarify the issues surrounding the social organization of knowledge in support practices for people with mental disorders and the techniques for dealing with them. The results of this study are as follows. First, we clarified the issues surrounding the knowledge of people with disabilities in the mental health care field, focusing on the concept of illiteracy. Secondly, through the analysis of actual support practices, we clarified the techniques to deal with the issues surrounding the knowledge of people with disabilities.

研究分野：社会学

キーワード：精神障害 エスノメソドロジー 語り 相互行為 当事者研究 地域精神医療

## 1. 研究開始当初の背景

### 1-1 社会的背景

日本の精神保健医療は、2000年代の一連の政策的転換を受け、精神障害者の地域生活支援へとその重心を徐々に移しつつある。こうした重心の移行は、多くの支援者をして、地域における多様な社会関係のなかで障害者の生活を支援するという課題に向き合わせている。この課題をさらに複雑にしているのが、精神障害者によるネットワーク形成の進展である。当事者会やピア・サポート、当事者研究など、精神障害当事者がみずからのイニシアティブのもとで障害経験と生活上のノウハウを探求し、共有する機会がますます広がってきているのである。このような変化の結果、支援者には、当事者のもつニーズにとどまらずその知識を積極的資源としながらその支援を行うことが求められるようになってきている。すなわち、支援者にはその支援において、自身と当事者、様々な関与者のもつ多種多様な知識を把握し、またそれらを組織化していく作業が必要とされてきているのである。

### 1-2 学術的背景

精神障害者への支援についてその知識の社会的組織化に関わる先行研究には、おおむね次のようなものがある。第一に、精神医療領域における研究者・支援者と当事者、家族といった関与者の知識や経験をめぐる争異についての歴史的研究。精神障害者・家族に対する支援実践についてフィールドワークに基づいてなされた社会学的研究。知識の社会的組織化の技法を具体的な相互行為的実践のなかで解明していくエスノメソドロジー・会話分析による研究。以上を参照しながら本研究を開始した。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、精神障害者に対するさまざまな支援実践における知識の社会的組織化の技法を明らかにすることである。そのつどの実践において、それぞれの参加者のもつ知識や経験がどのように関連あるものとして参照され、対応されるのか。また、そのような対応に際して知識や経験にかかわるどのような規範が依拠され、その帰結はどのようなものとなるのか。こうした各点を、実際の支援実践の収録データに基づいて解明することが本研究の目的である。

## 3. 研究の方法

精神障害者に対する支援実践における知識の社会的組織化の技法を解明するために、本研究はおもに次の二つの方法を用いた。(1)課題の状況認識：精神障害者支援の現場において当事者の知識・経験をめぐって顕在化している課題の状況を把握する目的で、専門的知見を得るためのインタビューや障害当事者や家族、支援者を交えたワークショップ、当事者研究を主題としたシンポジウムをそれぞれ実施した。(2)支援実践の収録と分析検討：精神障害者に対する支援実践の収録（録音・録画）を行い、エスノメソドロジー・会話分析にもとづく分析を行うことで、知識の社会的組織化の技法を解明した。

## 4. 研究成果

本研究のおもな成果は次の二点である。

### 4-1 精神障害者支援における当事者の知識をめぐるとの問題状況

自己決定の原則にもとづく医療において、その対象となる人たちのもつ意思は治療と支援に

とって不可欠な前提である。このことは精神医療においても変わらない。しかし精神医療においては、精神障害の症状の及ぼす影響のため、対象となる人たちの意思にもとづいて治療と支援を行うことが難題であり続けてきた。

それを端的に表しているのが病識欠如（lack of insight）である。病識とは、精神障害をもつ人の自己認識の能力を評価するための医学的概念であり、病識欠如とは障害のためにこの能力を欠いた状態のことをいう。病識があることはその人をして病者役割の取得を可能にする。したがって医療者とのあいだで継続的な治療的支援関係を形成することを容易にする。そして医療者の視点からは、これは治療におけるコンプライアンスを期待できる状態であるといえる。反対に病識欠如においては、本人は自身のことを治療的支援の必要な病的状態にあるとは認めていない。しかしそれにもかかわらず治療的支援を要すると医療者が判断するならば、本人の意思によらない強制に訴える以外の手段はないことになる。

他方、精神障害者の視点からすると、病識欠如の概念はその自己認識と意思表示の能力を否定し、それらの試みを症状として捉えることを通じて社会関係から実質的に排除する働きをもっている。そのために当事者たちは病識欠如の概念についてたびたび批判を行ってきている。

#### 4-2 当事者の声をめぐる支援の技法

このような障害当事者のもつ自己認識と意思表示をめぐる問題に対し、支援の実践はどのような技法によって対応しているのか。本研究において収録・分析を行った事例から紹介する。

事例は、訪問支援を利用する精神障害をもつ利用者とその母親、複数の支援スタッフからなるミーティング場面からのものである。そのなかで母親は利用者が日ごろ行っている逸脱的な言動を支援者に語っている。

同居者による利用者の言動の語りは、利用者についての情報を支援者に与えるとともに、その生活において日ごろから同居者の経験しているトラブルの語りでもありうる。したがってこの語りは支援者に共感的な態度を示すことを求めている。しかしこれに応じることは、このトラブルの語りにそなわる同居者と利用者との対立的関係における同居者の側に負担することを含意する。さらには、これが利用者を前にして語られているためにこの対立的関係は目下の場面において喚起されており、共感を示す支援者は目下の対立的関係に負担することおそれがある。そしてこのような負担は、この対立的関係を通じて利用者への非難となりえ、したがって利用者の語る機会とその仕方を強く抑制することにもなりうる。

ここには、微細なものかもしれないが、障害をもつ当人の声を抑圧しかなないような状況を見ることができる。そしてこのような可能性に対して支援者たちが行っていたのは、その反応を分化させることで、一方で同居者に共感を示すとともに、他方で対立的関係の制約から離れて利用者に自身の行為に語る機会を与えることだった。このような方法を通じ支援者たちは、その対立的関係ゆえに直接的には困難な、利用者と家族成員との間の対話を媒介していたと言える。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 浦野 茂	4. 巻 60(10)
2. 論文標題 普通であることについて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 情報処理	6. 最初と最後の頁 965
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 浦野 茂	4. 巻 30(2)
2. 論文標題 書評：立岩真也著『不如意の身体 病障害とある社会』（青土社，2018年）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 保健医療社会学論集	6. 最初と最後の頁 85-86
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18918/jshms.30.2_85	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 浦野 茂	4. 巻 56
2. 論文標題 発達障害者の支援と社会の課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 高等学校人権教育資料集第56集 見つめる・語りあう・つながる人権教育	6. 最初と最後の頁 6-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 浦野 茂	4. 巻 17
2. 論文標題 ミクロ・ポリティクスとしての当事者研究	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 フォーラム現代社会学	6. 最初と最後の頁 202~215
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20791/ksr.17.0_202	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 浦野 茂	4. 巻 202
2. 論文標題 書評：貴戸理恵『「コミュ障」の社会学	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 こころの科学	6. 最初と最後の頁 116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 喜多加実代・浦野 茂	4. 巻 46
2. 論文標題 実践の記述としての「当事者」の概念分析	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 社会学年報	6. 最初と最後の頁 3-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村和生・浦野 茂・水川喜文	4. 巻 28(2)
2. 論文標題 当事者研究におけるファシリテーター・当事者の実践 共成員性とカテゴリー対を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 保健医療社会学論集	6. 最初と最後の頁 65-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浦野 茂	4. 巻 9
2. 論文標題 「言いっぱなし聞きっぱなし」のエスノメソドロギー	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 臨床心理学増刊	6. 最初と最後の頁 197-199
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 浦野 茂・下平美智代・宮本有紀・松本衣美・伊藤順一郎
2. 発表標題 利用者と家族との会話における支援スタッフの関わりについて：訪問支援場面のエスノメソドロジ的研究
3. 学会等名 日本精神障害者リハビリテーション学会第27回大阪大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 浦野 茂
2. 発表標題 ディスアビリティとインペアメント：精神障害・発達障害の困難経験からの検討
3. 学会等名 第68回関西社会学会シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 浦野 茂
2. 発表標題 ディスアビリティのエスノメソドロジー 精神障害・発達障害者との連携について
3. 学会等名 第90回日本社会学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 浦野茂
2. 発表標題 経験を語ることと道徳的問題：精神科訪問支援場面の検討から
3. 学会等名 第37回現象学・社会科学大会シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 榊原 賢二郎	4. 発行年 2019年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 234
3. 書名 障害社会学という視座	

1. 著者名 綾屋紗月（編著）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 金子書房	5. 総ページ数 297
3. 書名 ソーシャル・マジョリティ研究 コミュニケーション学の共同創造	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	船越 明子  (Funakoshi Akiko)  (20516041)	兵庫県立大学・看護学部・准教授   (24506)	
研究分担者	土田 幸子  (Tuchida Sachiko)  (90362342)	鈴鹿医療科学大学・看護学部・准教授   (34104)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------